

① 調査概要

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象学年（本市）

小学校6年生 473名（20校）
中学校3年生 515名（6校）

3. 調査の内容

① 教科に関する調査（小6：国語、算数、理科）（中3：国語、数学、理科）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- ・調査問題では上記の2点を一体的に問うこととする
- ・出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する
- ・中学校理科については、1人1台端末を用いた文部科学省CBTシステムによるオンライン方式による調査

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査



丹波市では、各学校において、調査結果の分析を行い、各学校の成果と課題を踏まえた授業改善策をまとめ、それをもとに、さらに授業改善を進めます。12月には市独自で学力定着度調査を実施するなど、継続的な検証改善サイクルにより、引き続き学力向上に取り組めます。



② 教科に関する調査（国語）

1. 小学校国語



自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることに成果が見られました。

情報の扱い方を理解して、読んだり書いたりすることに課題が見られました。



2. 中学校国語



自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに成果が見られました。

自分の考えが分かりやすく伝わるように表現すること（話すこと・聞くこと）や、文章の構成や展開について根拠を明確にして考えること（読むこと）に課題が見られました。

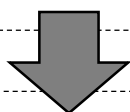


3. 課題の見られた問題例

【2三】目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうかをみる問題（小学校国語）

【課題】

- 書くための条件の2つの内どちらか一方の条件は満たしているものの、もう一方の条件を関連付けて書くことができていませんでした。
- 無解答や解答類型に満たない児童も一定数おり、問題文や資料の読み取り、課題を把握することにも困難があったことも考えられます。



【今後の学習の中で】

☆二つの文章を提示して文章の工夫を見つけ出したり、複数の資料を関連付けて文章を書いたり作り直したりするような学習活動がある授業づくりを進めます。

② 教科に関する調査（算数・数学）

1. 小学校算数



異分母分数の計算や、はかりの目盛りを読む等の知識技能面について成果が見られました。

表からデータの特徴や傾向を読み取ったり、課題解決のための求め方を式や言葉で説明したりすることに課題が見られました。



2. 中学校数学



1次関数におけるグラフの読み取りや確率を問う問題について成果が見られました。

論理的に思考し表現することや、数学的な用語の理解や数量を文字式で表すことに課題が見られました。

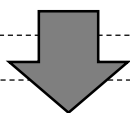


3. 課題の見られた問題例

【4(2)】使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く問題（小学校算数）

【課題】

- 伴って変わる二つの数量に着目し、使いかけのハンドソープの重さの他に、容器の重さと1プッシュ分の液体の重さが必要であると判断することができませんでした。
- たずねられている数量を求めるための方法を、式や言葉を使って記述することに課題が見られました。



【今後の学習の中で】

- ☆課題解決における過程において、教員が説明するばかりではなく、児童一人一人が式・言葉・数・図等を関連付けながら問題場面を捉えたり説明したりする場を増やします。
- ☆複数の情報から必要な数量を読み取るために、あと何がわかっていれば課題解決ができるのか等を考えたり、必要な数量を見出したりするような授業づくりを進めます。

② 教科に関する調査（理科）

1. 小学校理科



問題解決するための観察・実験の方法が適切であったか検討し、表現することに成果が見られました。

顕微鏡を操作することや身の回りの金属についての知識、「生命」に関する問題に課題が見られました。



2. 中学校理科



元素を記号で表すことや、新たな疑問や身近な生活との関連に着目して振り返りを表現することについて成果が見られました。

共通性と多様性を見方をはたらかせながら比較し、多面的・総合的に分析して解決することに課題が見られました。

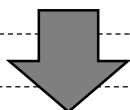


3. 課題の見られた問題例

【2(1)】考察をより確かなものにするために、必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題（中学校理科）

【課題】

○考察の妥当性を高めるために、追加の実験を計画して、予想される実験の結果を適切に捉えたり説明したりすることに課題が見られました。



【今後の学習の中で】

- ☆科学的な探究では、日常生活の中から疑問をもったり、実験結果を予想したりするなどして、見通しをもつ場面を大切にした授業づくりを進めます。
- ☆「○○より～」や「○○が○○と比べて」など、対象を明確にして比較したり関連付けたりして、関係性を適切に表現できるよう、言語活動の充実を進めます。

③ 質問調査から見たポイント

こどもたちの「生きる力」を育むために、
家庭・地域・学校で取り組みたい6つのポイント

1 規則正しい生活を心がけさせましょう。

2 家庭学習を習慣化させましょう

3 読書する機会を増やしましょう。

4 地域の行事に参加・参画させましょう。

5 自分の「好き」や「したいこと」について語り
合いましょう。

6 じっくり話を聞き、しっかり認めましょう。

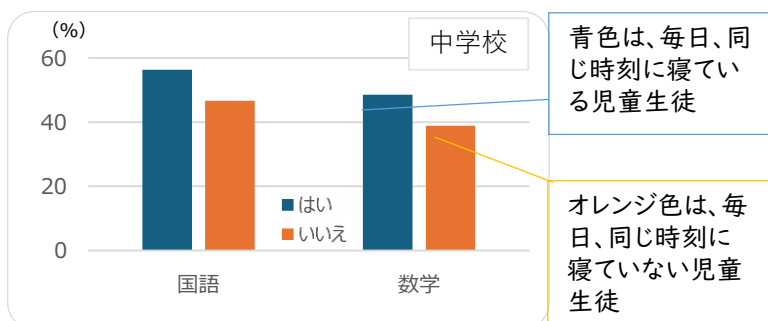
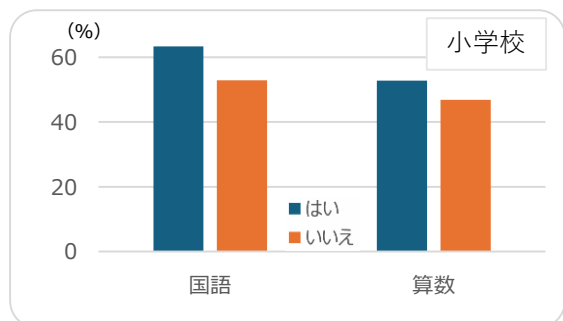
「生きる力」とは、「知・徳・体のバランスがとれた力」です。変化の激しい
これからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の
「知・徳・体」をバランスよく育てることが大切です。（文部科学省より）



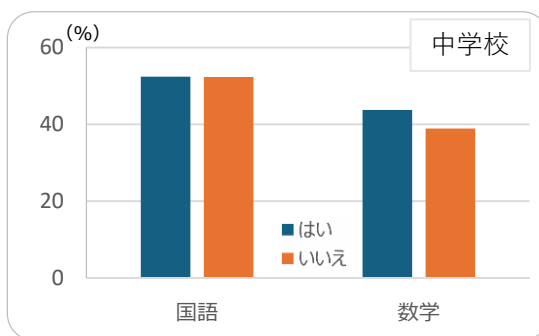
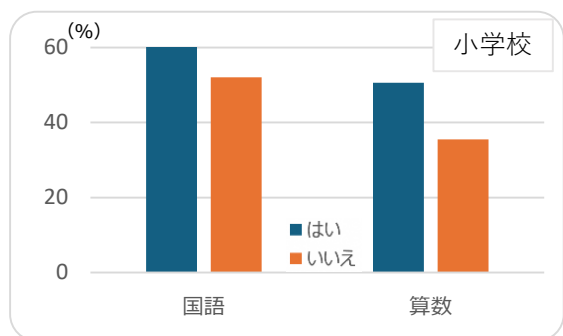
①規則正しい生活を心がけましょう。

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」と学力の関係

各グラフの縦軸(%)は平均正答率の割合



「朝食を毎日食べていますか」と学力の関係

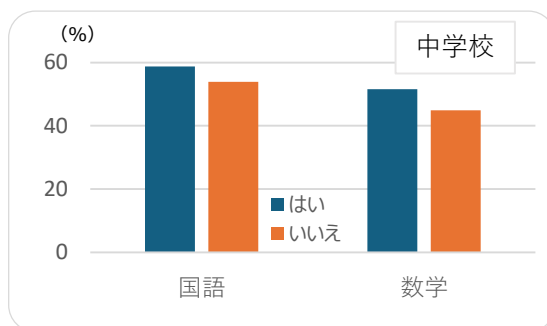
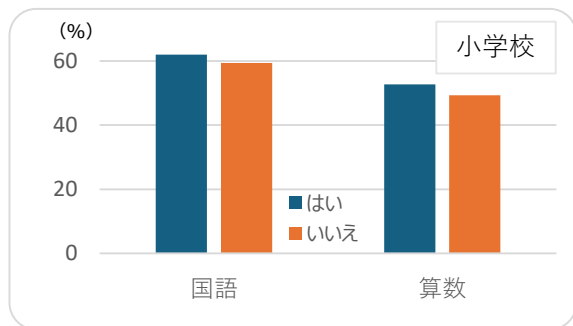


睡眠や食事を、ほぼ毎日同じリズムで生活することで、学力向上にも好影響がみられます。規則正しい生活習慣を身につけさせましょう。また、朝には太陽の光を浴び、1日の活動リズムを整えましょう。



②家庭学習を習慣化させましょう。

「学校が休みの日に、1日1時間以上勉強していますか」と学力の関係

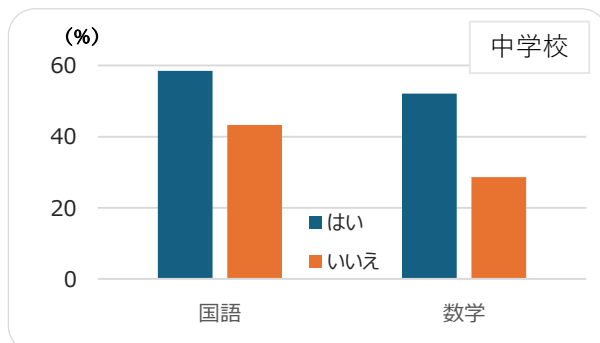
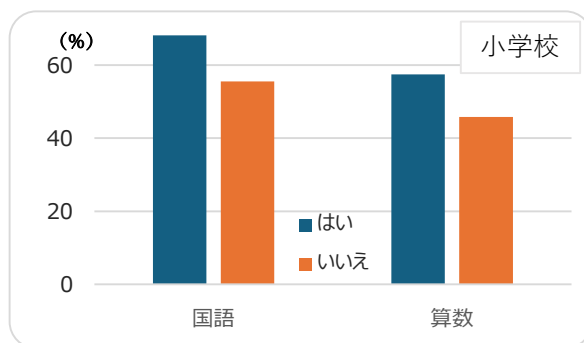


土曜日や日曜日など学校が休みの日にも、学習する習慣が身につけていることで、学力にも好影響がみられます。宿題があるから勉強するのではなく、毎日、自分で考えて計画的に勉強する習慣を身につけさせましょう。

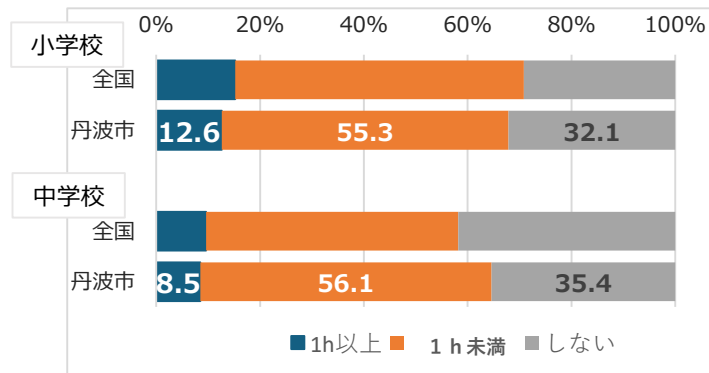


③読書する機会を増やしましょう。

「読書は好きですか」と学力の関係



「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」



読書の好き嫌いとは学力には関係が見られます。

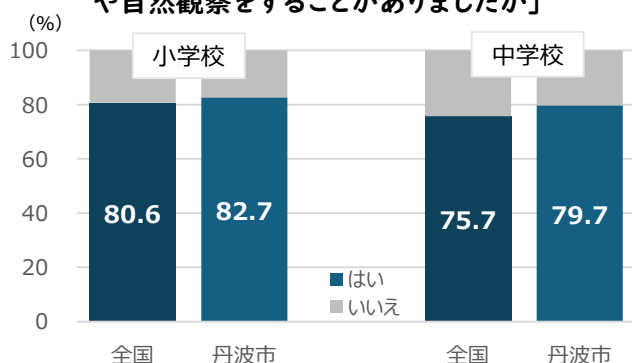
学校では、朝読書やすき間読書に取り組んでいますが、進んで読書をする習慣を身につけさせたいものです。

学校にも家にも読みたい本がある環境づくりに取り組んでみましょう。

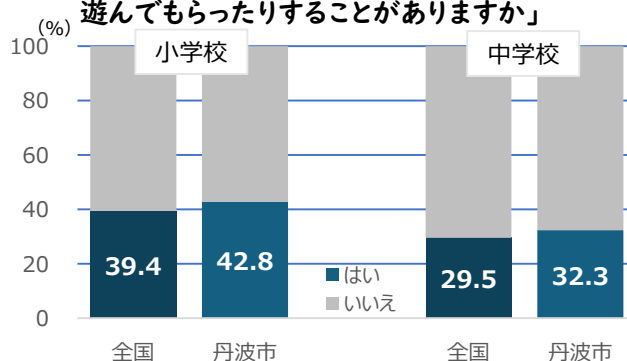


④地域の行事に進んで参加・参画させましょう。

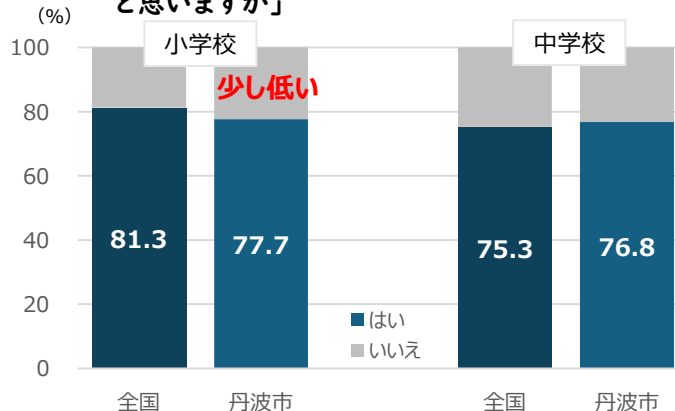
「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」



「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」



「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」



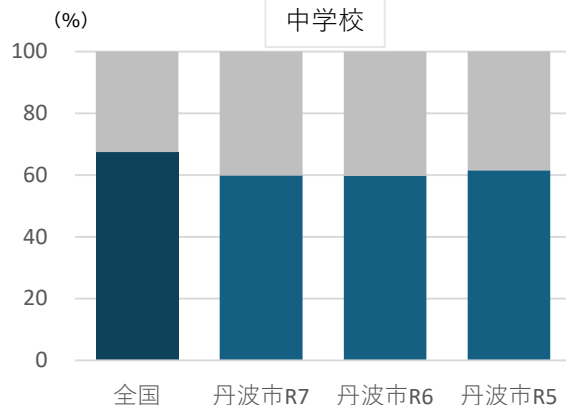
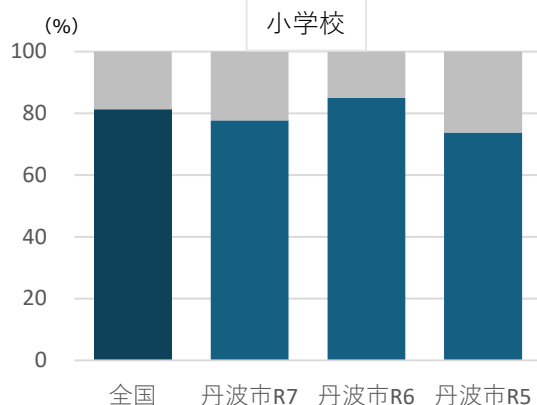
地域の自然に触れたり、地域の大人に関わってもらったりしているこどもは多いです。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」こどもをもっと増やしていくため、地域の行事に積極的に参加・参画し、自分が住む地域への関心を高め、地域の良さや課題を考えたり、主体的にふるさとをよくするために行動したりできるように支えていきましょう。



⑤自分の「好き」や「したいこと」について語り合いましょう。

「将来の夢や目標を持っていますか」

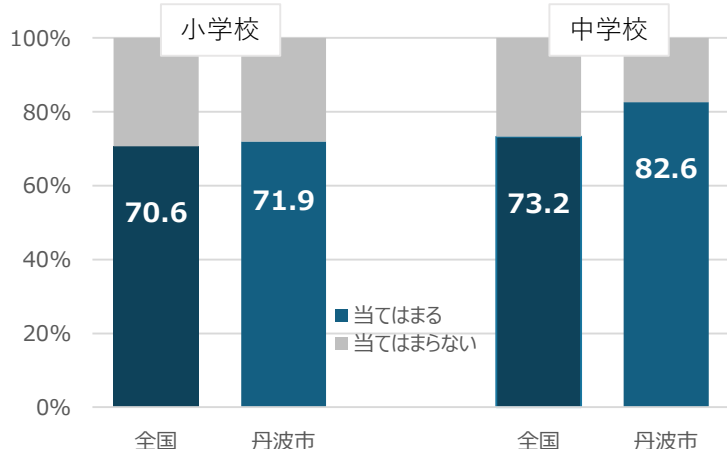


「夢や希望を持っていますか」という質問で、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答する児童生徒はやや少ない傾向にあります。ボランティア活動や職業体験、自然体験など、実際に体を動かして体験することで、教科書だけでは学べない発見や感動があります。日々の生活や多様な体験活動を通して芽生える「自分もこうなりたい」という、こどもの気持ちをキャッチできるようにしましょう。そうして、こどもたちが「やってみたいこと」や「なりたい自分」が見つかるように、かかわる大人があたたかく見守り応援する姿勢を見せていきましょう。



⑥じっくり話を聞き、しっかり認めましょう。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」



「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問で「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答する児童生徒は全国よりも多くなっています。こどもたちのより良い成長を支えるためには、安全・安心な環境や自尊感情、自己有用感の向上が必要です。周囲の大人たちが、こどもたちにしっかりと寄り添いながら、じっくりと話を聞きましょう。こどものありのままの姿を認めながら、困った時や不安な時にいつでも相談できる関係づくり、雰囲気づくりを大切にしましょう。